



造形スタジオ クリエイティブコーナー

のこぎりなどの《道具》を使い、思いを“かたち”に

（こどもの城）の造形スタジオでは、さまざまな造形活動を行っています。子どもだけでも、親子でいっしょでも楽しめる「親子コーナー」のほか、のびのびと絵をかくことができる大きな白いかべ「プレイングボード」（高さ2m×幅17m）があります。土・日曜日や祝日、夏休みなどの特別期間には小学生以上（プログラムによって、対象学年が変

わります）の子どもだけで、じっくりと時間をかけて取り組む「クリエイティブコーナー」が設けられます。

「クリエイティブコーナー」では、のこぎりやドリルなどの《道具》を使って、それぞれの思いを“かたち”にする造形活動をしています。今月は「クリエイティブコーナー」の活動を紹介します。

一人ひとりのちからを存分に発揮

「クリエイティブコーナー」には、大人は入りません。子どもたち一人ひとりが持っているちからを思う存分に発揮してほしいから、子どもだけで活動するスペースにしています。

スタッフから作り方のなどの説明をうけたのちは、見本やほかの子どもたちが作っているものを見たりしながら、作りたいもの、作るうとしていっているもののイメージを作り上げていきます。一人ひとりが思いを込めて

しているよう見えますが、同じスペースで同じような造形活動をしていると、いっしょにいるだけで自然とらのどこかに“ながま”という意識が生まれ、創作意欲が増すようです。

どのような形にするか、どんな色にするか——素材を目の前に置いて考えます。自分のなかのイメージを記していきなり、整理をしたり、スタッフと相談することもありますが、最後は自分自身で決めていきます。作り上げたものは、子どもが自分で自分の思いを表現した“作品”になります。子どもたちの思いや考えを、自分のちからで“かたち”にすることを大切にしています。

木、金属など——さまざまな素材を使う

多くの造形活動では、紙や粘土などの素材に手を加えて、“かたち”にしています。手を加えるときには、指などのほかに、はさみやのこぎりなどの《道具》を使います。《道具》を使うことで、素材をおもい通りに変化させることができるからです。

「親子コーナー」では親子で楽しめるように、手を加えやすい素材として、しばしば選んでいます。《道具》を使わなくても、手や指先だけでも切ったり、しめくちやにしたり、曲げたり折ったりして、さまざまな“かたち”にすることができるからです。はさみという《道具》を使って切ると、手で切るときとちがって、スムーズとした切り口になります。「ギザギザ」と「スムーズ」——切り口のちがいがけでも、イメージは大きくちがってきます。のりを使えば、はりあわせることもできます。平らなものでもできるし、立体的なものを作ることもできます。

「クリエイティブコーナー」では、使う素材や《道具》がおおまかに増え、木（丸太、竹など）、土（丸など）、金属（アルミニウム、銅など）——さまざまな素材を使ったプログラムが行われています。素材の形も、ほりかほりやのこぎりで削れば、うまし感が出てくるもの、かたまりになっているもの、いろいろな形を変えたいときに使う《道具》も増え



かいますが、いろいろな《道具》を使うことにもなります。例えば、のこぎり——使いために慣れていないと、まっすぐに切らずに曲がったりゆがんだりします。ちからまかせに無理やりに切るのはなく、正しい使い方（両手でしっかり持って、のこぎりをまっすぐに立てて切る）をしないと、うまく切れません。うまく切れないときは、素材のほうから《道具》の使い方がへんだよと教えてくれます」と造形スタジオのスタッフ、《道具》が使えないと、表現ができないうわめではないけれど、《道具》が使えれば、よりさまざまな方法で表現することができるようになります。

こどもの城でイベント

造形スタジオでは、毎週今月の行事にちなんだプログラムを行っています。6月17日～7月6日は「こども劇場第一七号」「親子コーナー」では、休曜日（6月23、30日）を除く毎週、「七夕ミルキーロード」を開催しています。たこ糸を引っ張り、おり紙とひこねが遊ぶことができます。「クリエイティブコーナー」は、6月21日～22日・29日、7月5日～6日の土・日曜日、7月11日の毎月第2金曜日、小学生以上が対象。約1時間。未だにわたしたちがけがけの道を、パランスとりながらわたる「天の川パランスわたり」(7月)を行います。

に手を加えて形を変えていくのが、表現をしていくときの大切な要素になります。

素材が増え、使える《道具》が増えると、表現できることも増えます。テーマに合わせていろいろな表現にチャレンジすることができるようになります。想像の世界におきかえると、ポキャラリーが豊かになると表現力が進むこと共通しています。

「ポキャラリーが少なくなってもすぐれた表現をする人もいます。『表現』は一人ひとりのちからにこそ、クリエイティブコーナーでの造形活動をとおして、まわりの人の表現したものを尊重し、理解することを身に付けてほしいと思います」と造形スタジオのスタッフ。

素材とお金い、素材を生かして表現するために《道具》を使います。そして、《道具》を使うことで表現できるものが増えています——このような経験をかかぬことで、子どもたちは自分表現するちからを身につけていくのではないのでしょうか。



《道具》を使って素材の形を変える

「穴をあける」方法を考えとみます。紙ならば、指先で刺してあけることもできます。針や千枚通しなどの《道具》を使って穴をあけることもあります。木に穴をあけ、きりやドリルなどの《道具》が必要になります。素材によって使う《道具》がちがってきます。使い方も知らなければなりません。

「クリエイティブコーナー」でよく使う《道具》は、のこぎり、ドリル、木づち、金づち、棒やすりなど、切る、たたく、はさる、穴をあけるという、形を変えたり削ったりするときの基本となる《道具》です。

「造形表現をしようとするとき、使う素材によってち

表現の“ポキャラリー”を増やす

使う素材が増えると、表現できるものも増えます。紙にはさまざまな種類があり、ツルツルした紙からザラザラした紙まで、表面の印象もいろいろあります。でも、木や金属がもっている“かたち”はあまり感じません。金属には、木や紙にない“つめたさ”を感じることがあります。目に入ってくる印象は素材によって異なり、そのちがいが表現に大きく影響します。手にしたときの重さやかたさなど、素材それぞれが持っている性質も表現に関与してきます。

素材の性質を理解したうえで、どのような《道具》を使って、どのよう

